

花山さん……「」で何してるんです？

ぞろ……

ぞろ……

え……いやちよつと！

ぞろ……

「……」いつらは食人族AとB!!

あらすじ

記者でレポーターの私は、カメラマンの男(婚約者)と頑丈な柵で囲まれた、ポツンとした農村を見つけた。
住んでいるのは男が数人のみ……。
その男たちは妙なことに
体のあちこちに刺繍のような模様は刻まれていた。
どういう生活習慣を送っているのかも気になるし、
これは面白そうな記事を見つけたと私は張り切っていた！

とりあえず話をすると物分りもよく、**この村の風習**も
教えてくれるそうだし、一晩止めてもらえることに……。
男性しかいないけど、
こっちにも男がついているし大丈夫だろうと思っていた。

しかし、朝起きると妙なことに彼がいない……。
私はまだ夜明けで暗い朝だったけど、外を見回すことに。
するとまだ誰もいなかった。
ただ、ある奥屋から妙な異臭と殺気がした……。
私はそこを興味本位で覗いてしまった。
すると、そこには、**カメラマンの彼が村の人達全員に囲まれて食料として
解体されていたのだ……。**

私はそこから逃げようとした！しかし、入ってきた鉄の柵格子の
扉は固く閉ざされていた！
柵でかこまれたこの農村からは出られそうにない！

そして、私はこの村で見てしまったあの秘密が気付かれないように、
この村でカメラマンの彼を探すという体で
やつらの言いなりとなり暮らすことになる。。。。

ど……どうですか……気持ちいですか？

いや、申し訳ないね！

この人が人肉を解体していた張本人……
気をつけなきゃ、食われる！

年になると体がゆうこと
聞かないんよ……ハハハ！

自分で男の体解体してたくせに！

コッュ

ゴッ

花山さん……「」で何してるんです？

ぞろ……

ぞろ……

え……いやちよつと！

ぞろ……

「……」いつらは食人族AとB!!

にしても、花山さんってきれいな体してるよね

あ、そうですか？

ぶにっ



いいねえ……

君はとくに、ここの脂肪がすごい美味しそうだね！
食べちゃいたいくらいだよ……

ガッ

ガッ

ガッ

わ……私食われるの？

わ……私雑食なんで、
おいしくないですよっ！

ぐわ

ぐわ

いやいやいや……

勘違いしないでくださいよ……

あくまでたとえの話ですよ……

びちゃ